

### 新郷の公社と福岡の製薬会社

# 「甘草」研究栽培で協定

## 13年3月までに適地検証

新郷村ふるさと活性化公社（理事長・須藤良美村長）と医薬品製造、販売の新日本製薬（福岡市、後藤孝洋社長）は6日、漢方薬などに使用される「甘草（カンゾウ）」の研究栽培に関する連携協定を締結した。村内での試験栽培を経て、同社が2013年3月末をめどに、栽培結果を検証する。栽培適地と認められれば、本格栽培への移行や加工工場の新設につながる可能性がある。

同社によると、甘草は肝機能障害やアレルギーに有効とされるグリチルリチンを含み、病気への抵抗力を強めたり、炎症を治めたりする効果などがあるといわれ、多くの漢方薬に配合されている。

日本では300年以上前から栽培されてきたが、現在は中国などからの輸入品がほぼ100%を占め、国内ではほとんど生産されていないという。同社は6年前から甘草の栽培に着手し、新潟県や島根県などで試験栽培を実施中だ。

村では、今年5月に甘草の一種「ウラルカ

ンゾウ」の苗1500株を取り寄せ、村内の農地で試験栽培を開始した。同公社職員が管理している。

6日は村役場で調印式が行われ、関係者約20人が出席。須藤村長と後藤社長が協定書に署名した。

須藤村長は「ナガイモやニンニクに次ぐ農作物となることを期待している。栽培を成功させ、地域の発展につなげたい」と抱負。

後藤社長は「これまでの成果を一步前に進めることができる。全国に流通できるような環境づくりに向けて努力する」と述べた。

ガソリン平均  
148円70銭

3週ぶりに  
値上がり止まる

石油情報センターが6日発表したレギュラーガソリンの4日現在

## 栽培に関する連携協定調印式



協定書に署名し、握手を交わす須藤良美村長（右）と後藤孝洋社長（6日、新郷村役場）